

日本放射線技術学会 第70回総会学術大会の開催にあたって



第70回総会学術大会
大会長 江口 陽一

JRC2014のメインテーマは『Face to Faces Face to Communities Face to the World -向きあう、つながる、そして広がる-』です。このテーマには、どんなに医学・医療機器が進歩したとしても、まず、患者さんと向かい合い、医療スタッフと向かい合い、チーム医療を進め、患者さんのために、国民のために貢献していくという意味が込められています。この医療の原点は、過去も、現在も、未来も変わるものではありません。これを実現するには、各個人が切磋琢磨して専門性を向上させ、チーム医療の一翼を担う必要があります。

本大会の特別講演では、日本サッカー協会(JFA)よりご講演いただきます。JFAが進めているリスペクト・プロジェクト「大切に思うこと」はチーム医療と相通じるものがあり、共感できることが多くあると思います。

もうひとつの特別講演は、Medical Excellence JAPANの朝比奈 宏先生の「医療の国際展開」です。Medical Excellence JAPANは、今、内閣官房、厚労省、経産省、文科省、外務省、総務省と民間が連携して、国内医療機関への外国人患者・医療関係者等の受入れ、日本の医療機器・技術の海外展開など官民一体となって進めている医療の国際展開の民間側の法人です。我々が培った技術を世界へ展開する良い機会になると思われまます。

海外からお越しいただく講演者は、米国からEhsan Samei先生(Duke University Medical Center)、Christopher D. Carr先生(Radiological Society of North America)、Craig S. Levin先生(Stanford University School of Medicine)、韓国からYoo Jei Hoon先生(Department Radiology of Severance Hospital)、中国からChinese Society of Imaging Technology会長のMing Guo Shi先生の5名の先生です。

一般研究発表(CyPos発表)は第68回総会学術大会から1演題30分枠になりました。この十分な時間を利用して活発な質疑応答が成されるように、本大会では座長の指示のもと発表内容の解説を行っていただけます。他学会にはない素晴らしい時間ですので、活発な討論で盛り上がることを期待しています。

技術活用セミナーはテーマを「外科手術・インターベンションにおける医療画像の活用法」といたしました。CT、MRI、RI、X線検査などの医療画像は診断のみならず外科手術のシミュレーションやナビゲーション、またインターベンションの支援に多く利用されています。CTなどによる3次元画像は、その豊富な画像情報を利用することにより、安全で確実な治療法に向けて数多くの応用が期待されています。本大会での技術活用セミナーでは、各領域において活躍されている医師の方々から実際に手術やインターベンションで必要とされる画像、シミュレーションなどで求められる3次元画像や実践的活用方法などを解説していただきます。

新たな企画として、2つの団体との共同企画を設けます。ひとつは日本循環器学会(JCS)とのジョイントシンポジウムです。JCSは他職種の学会との相互協力を深め、チーム医療のもとで最適な医療を目指しています。本学会も同様な方針であることから、今回初めてJCSとのジョイントシンポジウムが実現いたしました。

もうひとつはJFAとの共同企画です。「チーム医療とリスペクト」をテーマとした共同企画コーナーをITEM2014の展示ホールに設けますので皆さんお越しく下さい。また、「人材育成」をテーマとしたJRC2014との合同シンポジウムも行います。2014年、サッカーワールドカップイヤーに、JFAとJRCが共同企画を組めることは楽しみのひとつです。

この合同企画の実現にご協力いただきましたJCSチーム医療委員会委員長の伊藤浩先生(岡山大学大学院)とJFAプレジデント・ヘッドクォーターズの安達健部長に心より感謝申し上げます。

実行委員会では、『参加して良かった、発表して良かった、また参加したい、また発表したい』を目標に準備してきました。一人でも多くの方が、そのように感じていただければ幸いです。

日本において横浜は、世界に羽ばたく拠点として発展してきました。その横浜で開催される本大会が、皆様の益々の飛躍の機会なることを願っています。

大会開催への想い



第70回総会学術大会
実行委員長 市田 隆雄

私こと、市田が日本放射線技術学会第70回総会学術大会において実行委員長を務めることとなりました。まずは今回大会でお力添えをいただきました諸氏のご厚情に心底より御礼を申し上げます。そして参加いただきました皆さまには、明るい未来を感じていただくことを願って努力したこと、特に『若人の羽ばたきの背中を押せる』大会としたい、その想いであったことを第一にお伝えさせていただきます。

ところで冒頭でもう一点の想い、当方の頓首とする文言を記します。大会長、江口陽一氏へ心よりの感謝と敬意を表します。この意の所以は、ネット社会とは云へ山形大学と大阪市立大学での遠路距離での実行委員長指名にたいへんな驚きがありました…当方感慨の一部です。拝命したことへの光栄との感動、そして古くは23年前、1991年の山形の地での秋季学術大会での出会い以降、さまざまにご指導いただいたことへの感謝、同時に長年において氏のお背中を拝見し、各種を拝聴拝読してきた尊敬に値する念です。その手腕に多大なる教授をいただいているのが今日当方です。なにをおいても記したい自身気持ち、ここに書き下ろすことを参加された皆さま、何卒お許しくださいませ。

次、実行委員長としての視点梗概を以下に記述します。

世界において放射線技術学を専科として探究している学術団体は、これほどの規模では唯一であることを皆さまに是非とも知っていただきたい。その元で世界最高水準の本学会に帰属してのいっそうの活躍に期待するものです。世界における診療放射線技師は名称が同一であっても、細目にわたる責務・職務には差異があります。本邦の場合、平成22年の厚生労働省のチーム医療に纏わる医政局長通知に代表されますが、いっそうの責任が託される動向が示唆されています。つまりそれは、長年の本学会の活動蓄積への期待と評せられます。放射線技術学が科研費の項目に新生されたこともその証といえましょう。このような世情のもとで今回大会を迎えました。

第70回大会では国際化推進を念頭に置きつつ、独特カラーとして2つのビジョンを持ちました。一つは日本循環器学会とのジョイントシンポジウムです。循環器領域での魅力溢れるプログラム組成が直接的利益ですが、本邦では70を超える医学会が設立されており、医療・国政に大きな影響力をもつ日本循環器学会首脳に本学会の活動を客観的に評価いただくことにも観点を持ちました。正に中・長期展望での本学会の認知度の熟成目的です。もう一つは日本サッカー協会とのコラボレートです。スポーツは国民に愛されており、おのおのの心に勇気と希望を与えています。医療においても同様が必要であることは言うまでもありません。またサッカーはチームとしての成り立ち加減で、勝敗を始めさまざまの詳細が結果として定まります。細かな意味合いは違ったとしても医療も同じです。チームとしての成否で患者さんの受ける全体像としてのサービス(放射線技術学の貢献)の絶対値が決まります。サッカーと私達の務めはまったく異種のようなのですが“チーム”という共通用語のもと極めて互換性を有することが分かります。大会テーマに醸し出す雰囲気、優しく患者さんのお心に触れることを通じて、最適な放射線技術学の提供を願っています。この“チーム”をkey wordとして議論し、チーム医療の確たる定義育成に寄与したい。以上が掲げるビジョン真意です。

そしてこの2つのビジョンの先々には、本邦社会の放射線での患者さん(国民)への情報提供について本学会がファーストチョイスの窓口となること、未来への道筋を築けることを考えます。但しこのような道のりもすべては皆さまの真摯な姿勢、そして活躍が二人三脚として存在して初めて実現できることです。目前の目標達成をお願いするとともに、各位が協働しての将来構築へのご努力をお願いするものです。

ここで、当方の啓蒙する言葉を紹介します。『君、臣を択ぶのみに非ず、臣も亦君を択ぶ』、この語意についてはさまざまな解釈ができますが、私の今日を築く礎になっている言葉です。江口大会長に対する見方が浸透しておりますし、立場変われば当方施設の自身の位置付けでもこの考えが通じています。時にして“君”立場で、また“臣”立場となりますが、いずれも将来への素晴らしい行いを自ら築くことに共通しています。抽象的な表現に限りませんが本稿を読まれる方々において、自ら将来を見出すとの理念のもと具体的な思考・行動のヒントにいただければ幸いです。本学会の将来は若人の皆さま次第です。大会長、私はじめの古参はその土俵作りが務めと理解しており、若人を応援したい気持ちに已まないこともお伝えさせていただきます。

今大会での皆さまとの出会いが、明日に繋がることを祈念し、筆をおきます。大会参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。